

伊藤 隆 司

専門分野は、国語科教育学、教育方法論です。とりわけ、子どもの綴方に関する歴史的・理論的研究を中心としながら、児童文学・絵本・詩・小説・ルポルタージュ・マンガ・演劇・朗読・ストーリーテリングなどとの出会いがもたらす可能性を探求しています。詳しくは、「伊藤隆司研究室」というキーワードで検索して、私のHP (<http://www.ritsume.ac.jp/~t-ito/index.htm>) をご覧ください。

1. 専門演習の目標

人間の発達や生活にとって「言葉」や「言葉による文化」との出会い、いかなる意味を持つのでしょうか。その意義と可能性を、人間認識・世界認識と言葉、関係と言葉、体と言葉、心と言葉、生活を支える言葉などを切り口として、児童詩・作文・児童文学・絵本・少年詩・小説・新聞・ルポルタージュ・マンガ・演劇・朗読・ストーリーテリング等を手がかりとして考察します。

2. 専門演習で扱う課題と内容

すぐれた詩・文学・絵本などは、人間や世界の真実の、どこかに、どれだけか、ふれています。私たちは、「言葉」や「表現」をてがかりとして、その「何か」に近づこうとするのですが、そう簡単ではありません。さまざまな通信機器が発達した現代において、人々は、「言葉」への依存度を高めながら、一方で、「言葉」のもつ「重み」を急速に見失いはじめています。ゼミでは、受講者の関心を生かしながら、「言葉」が生まれるプロセスを解明したり、「言葉」による様々な文化との出会いがもたらす今日的な意義や可能性を探っていきます。ちなみに、昨年度は、スローライフの思想の探求、御室小学校3・5年生『読書の時間』での読み聞かせ・ペープサート実演、嵐電沿線の言葉探し、ゼミ通信『月刊てくてく』の作製などに取り組みました。

3. 授業の進め方・内容

基本的にはゼミ生と相談しながら進めます。3回生前期においては、児童詩・少年詩・児童文学・絵本・児童文化等に関するゼミ生自身の問題意識を一層鮮明にするために、文献学習に取り組みます。その過程で、後期に向けて、研究テーマを深め、発表や検討を重ねていきます。4回生では、それまでに見つけた各自のテーマをさらに掘り下げることをめざし、「卒業研究論文」につな

げたいと思います。

4. 必要とする知識

言葉や表現、児童詩・作文・児童文学・絵本・少年詩・小説・新聞・ルポルタージュ・マンガ・演劇・人形劇・朗読・ストーリーテリング・言葉遊び等についての興味・関心をもっていること。

5. 関連する分野・科目・知識

児童文化論、文学論、読書指導論、学校教育論など。

6. テキスト・参考書・機材（受講生が標準的に持つもの）

ゼミ生の関心を見きわめた上で、適宜紹介します。

7. 独自に付加する選考方法

特にありません。

8. 受講生に望むこと

一つの「問い」に一つの「答え」。本当でしょうか。与えられた知識に安住し、「もの分りのいい人」を演じる前に、もっと「寄り道」を楽しみたいものです。大学は、学問は、共に未来を語るためにあるのですから。